ここまでわかった
鞠智城
第5号

出土遺物について

鞠智城から出土した
数多くの遺物の内容と
そこからわかることを
紹介します。

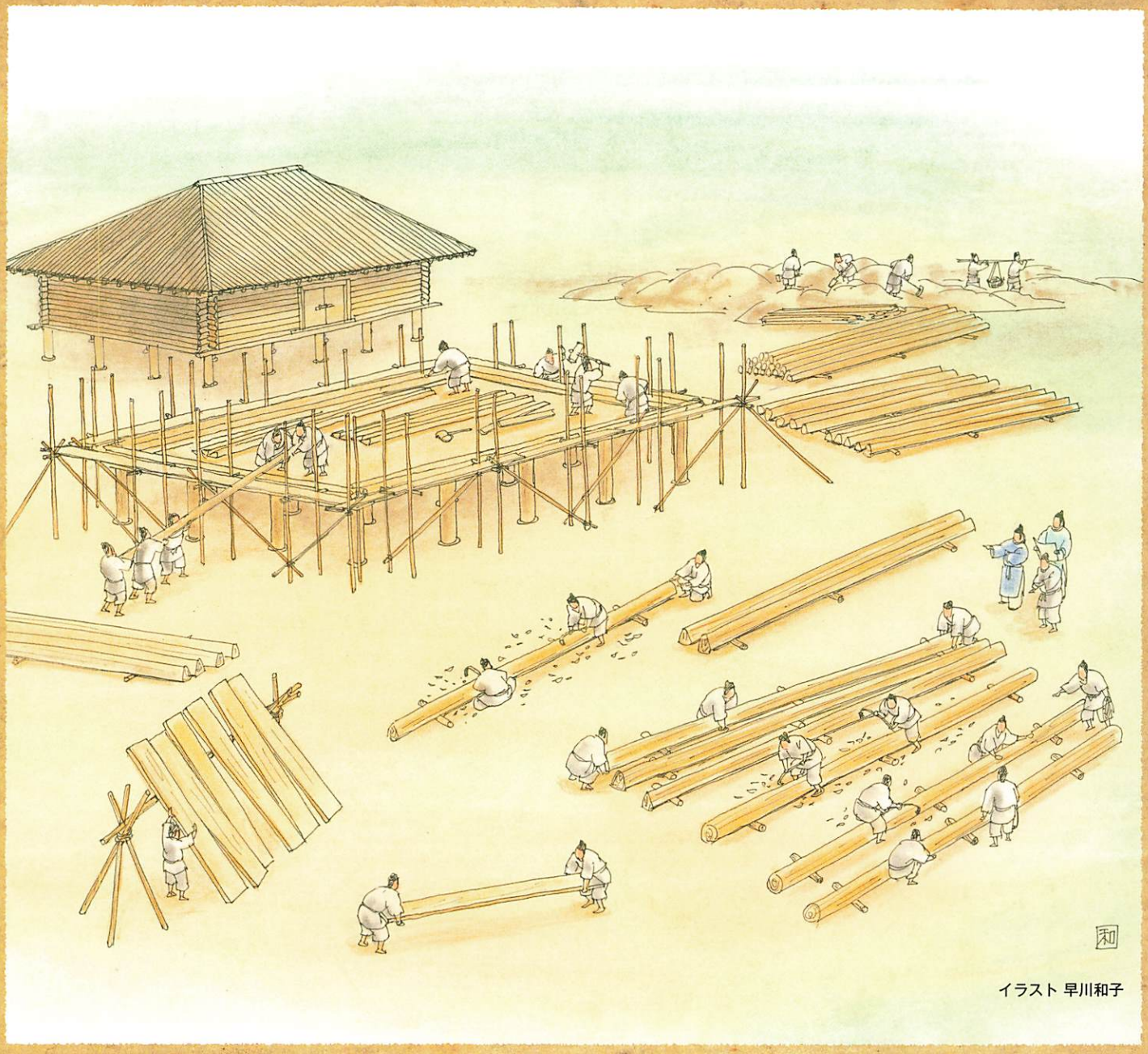


イラスト 早川和子

鞠智城では、城を築造・維持していくために
また、城での生活のために
たくさんのモノが使われました。
これらのモノは、1000年以上の時を超えて、
「遺物」として現代の私たちに鞠智城の姿を物語ってくれます。

出土した遺物は、古代からの「メッセージ」。鞠智城の謎を解明する手がかりが隠されています。

遺物は、鞠智城の成り立ち、変遷、機能を現代の私たちに教えてくれる。

遺物とは、昔の人々が使用したモノが長い年月の中で土に埋もれ、その後、遺跡から発見されたもののことをいいます。例えば、皿や鍋などとして使われた土器や、矢じりやナイフなどとして使われた石器などがその代表です。

鞠智城跡からは、発掘調査によってたくさんの遺物が出土し、その数は遺物収納用コンテナ約400箱分にものぼります。遺物は、古代の人々の生活の営みと歩みを現代の私たちに教えてくれる大切な宝物なのです。

イラスト 早川和子

建物跡が集中する長者原地区や貯水池跡などを中心に土器、瓦、木製品、仏像、木簡などの遺物が出土。

鞠智城跡から最も多く出土した遺物は土器です。食べ物を盛ったり煮炊きする道具として使われた土器は、鞠智城の守りについた兵士たちの暮らしを今に伝えるだけではなく、土器の形の特徴から、その土器が作られた年代を知ることができます。また、建物の屋根に葺かれていた瓦も見つかっており、鞠智城内に瓦を葺く建物があったことがわかります。その他、貯水池跡から、銅造菩薩立像、木簡、鍬や横槌といった木製品などの遺物が出土しました。

これまでの32回にわたる発掘調査で様々な遺物が出土。

銅造菩薩立像

銅造菩薩立像は、貯水池跡の池尻部から出土しました。枘（下部の突起部分）を含む高さ12.7cm、幅3.0cmで、横から見ると体部がS字曲線を描いています。顔の表情は丸みを帯び穏やかで、三面の宝冠、肩まで垂らした垂髪、両肩にかけられた天衣などもよく表現されています。また、舎利容器と考えられる持物を、へその前で両手で抱えるように持っています。

この仏像は、7世紀後半の百済仏の特徴を持つことから、朝鮮半島の百済でつくられ日本に持ち込まれた可能性が高いと考えられています。

銅造菩薩立像（原寸大）

木簡

木簡とは、細長い短冊状の木の板に墨で字を書いたもので、紙が貴重品だった古代において多く用いられました。鞠智城跡では、貯水池跡から木簡が1点出土しています。この木簡には「秦人忍□五斗」という文字が書かれており、秦人忍という人物が税として納めた米に結び付けられた荷札であると考えられています。上部には左右からの切り込みがあり、この切り込みの形状は九州の木簡に多く見られる形態です。

木簡（原寸大）

須恵器

須恵器とは、古墳時代中頃（5世紀）に朝鮮半島から伝わった技術で焼いた器で、窯を使用して高温で焼くため硬質で灰色を呈しています。鞠智城跡では、椀、高坏、甕、壺、甕、平瓶などの日常生活に用いられたものの他、円面硯と呼ばれる円形の硯などが出土しています。その中でも特に、食器として用いる椀や水などの液体を貯める甕が多く出土しています。鞠智城跡では、8世紀代まで須恵器が使用されます。

土師器

土師器とは、古墳時代から平安時代にかけて作られた器で、窯ではなく地面に穴を掘って焼くため、焼成温度が低く、軟質で赤褐色を呈しています。鞠智城跡では、椀、高坏、甑、甕などの土師器が出土しています。土師器は熱に強いため、食べ物の煮炊きに使われる鍋などの用途として使われるものが多くみられます。鞠智城跡では全時期を通して使われており、特に9世紀以降は土師器のみが使われています。

木製品

鞠智城跡では、横槌・鍬・柄などの農工具、建築材、男性器形木製品などが貯水池跡から出土しました。農工具は、どれも大まかな加工までされている未成品でした。柱などの建築材も使用前のものと考えられます。農工具も建築材もそれらが必要となる時まで貯水池の中で保管していたものと思われます。男性器形木製品は、池における祭祀行為に使用された可能性があります。

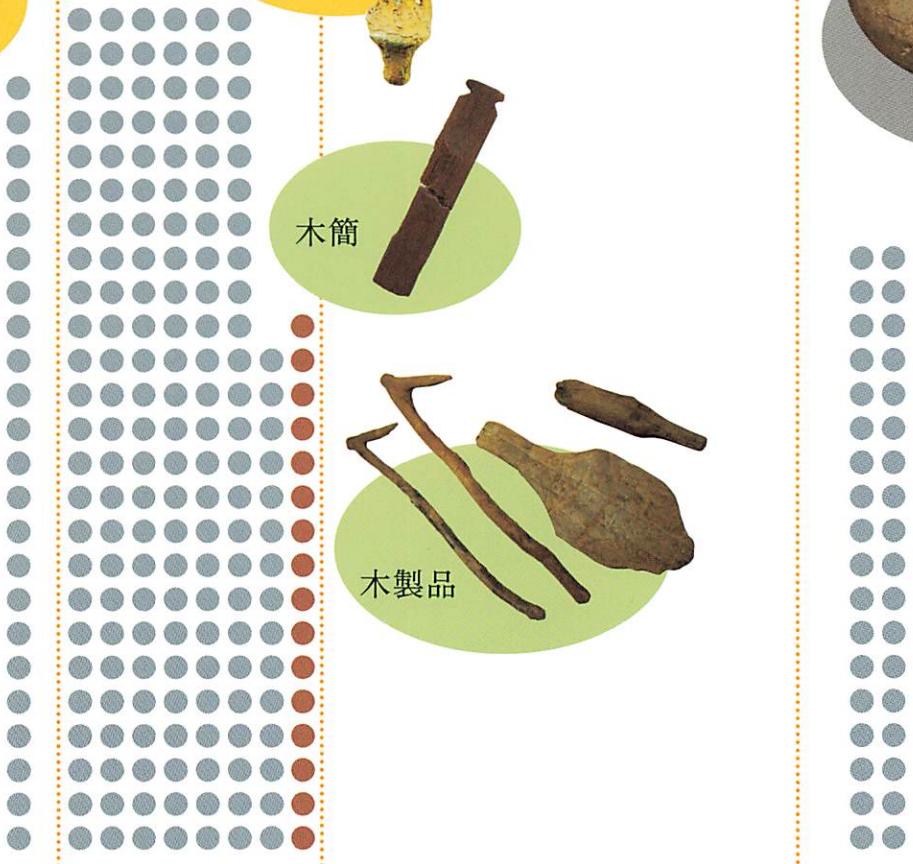
瓦

鞠智城跡では、軒丸瓦、丸瓦、平瓦の3種類の瓦が、大小の破片を含めて合計約1万900点出土しています。軒丸瓦には、「単弁八葉蓮華文」と呼ばれる蓮の花をかたどった文様が施されていますが、これは朝鮮半島の瓦文様の影響を受けたものです。鞠智城跡から出土した瓦は、ほとんどが7世紀後半から8世紀初めにかけて作られたと考えられています。

300年、5期にわたる変遷を

鞠智城は7世紀後半に築造され、10世紀中頃まで存続しました。その300年間にわたる長い歴史の中で、鞠智城は5期にわたる変遷をたどったことが明らかになっています。鞠智城跡から出土した遺物は、それぞれの時期における鞠智城の姿を語ってくれる大切な宝物です。

鞠智城跡 出土土器の 時期別数量比較図



■ 鞠智城の変遷

Ⅰ期（7世紀第3四半紀～）
鞠智城の創建期
- 掘立柱建物の建築
- 城門の構築（深迫・堀切・池ノ尾門）
- 貯水池の造成　・土塁の構築

Ⅱ期（7世紀末～）
鞠智城の隆盛期
- 建物配置の変化
- 八角形建物の出現
- 「繕治」（698年）

Ⅲ期（8世紀第1四半紀後半～）
鞠智城の転換期
- 礎石建物の出現
- 出土土器の空白期

8世紀　9世紀

660 唐、百済を滅ぼす
663 白村江の敗戦
664 防人・烽設置・水城築造
665 長門国城・大野・基肄城築城
667 金田・屋嶋・高安城築城
668 唐、高句麗を滅ぼす
672 壬申の乱
676 新羅が朝鮮半島を統一
694 藤原京に遷都
698 大野・基肄・鞠智城繕治
698 699 高安城修理
699 三野・稲積城修理
701 大宝律令の制定
701 高安城廃城
奈良時代
710 平城京に遷都
712 「古事記」を撰上
713 「風土記」の編纂
719 茨城・常城廃城
720 「日本書紀」完成
724 聖武天皇 即位
729 長屋王の変
740 藤原広嗣の乱
741 国分寺・国分尼寺の建立
743 墾田永年私財法
755 安禄山の乱
756 怡土城築城
757 養老律令 施行
764 藤原仲麻呂の乱
781 桓武天皇 即位
784 長岡京に遷都
平安時代
794 平安京に遷都
795 肥後国が大国に昇格
797 坂上田村麻呂が征夷大将軍になる
804 最澄と空海が唐に渡る
805 唐より天台宗が伝わる

■ 日本・東アジアの年表

見つめてきた遺物たち

土器は、同じ用途に使われる土器であっても、時代によって少しずつ形が変わります。この土器の形の特徴から、土器が作られ、使用された年代を推定することができます。鞠智城の存続年代を明らかにする上で鞠智城跡から出土した土器が大きな役割を果たしました。

Ⅳ期（8世紀第４四半紀～）
鞠智城の変革期
・礎石建物の大型化
・貯水池南側が埋没

Ⅴ期（9世紀第４四半紀～）
鞠智城の終末期
・建物数の減少
・礎石建物の再建

10世紀第３四半紀
廃城

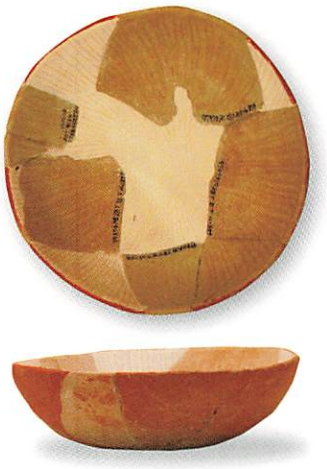
10世紀

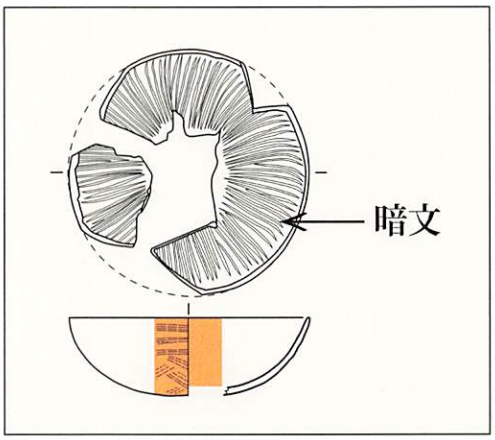
806 唐より真言宗が伝わる
858 菊池城院、兵庫鼓自鳴、不動倉十一宇火
859 肥後国山本郡設置
879 菊池郡城院、兵庫戸自鳴
894 遣唐使の停止
901 菅原道真が藤原氏によって大宰府に流される
905 『古今和歌集』編集
907 唐滅亡
918 高麗建国
935 新羅滅亡
935 平将門の乱
939 藤原純友の乱

遺物に関するトピックス

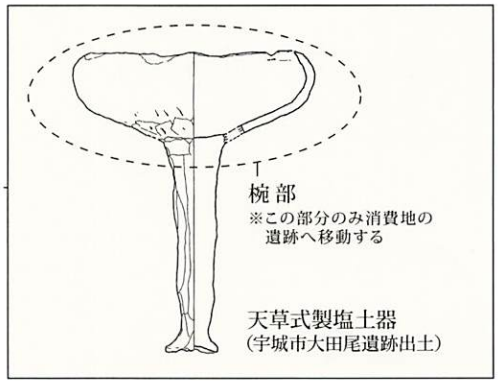
土器が語る鞠智城と他地域の交流

鞠智城跡の発掘調査では、土器や瓦、木製品などたくさんの遺物が出土しました。その中でも最も多く出土したのが土器であり、「須恵器」と「土師器」という2種類の土器が出土しています。これらの土器は、椀や皿などの食器、鍋などの調理道具、そして水などを貯える貯蔵具など、さまざまな用途に使用されました。鞠智城跡から出土したこれらの土器には、遠く離れた場所で製作され鞠智城に運ばれてきたものがあります。須恵器では、福岡県大野城市一帯に所在する西日本最大級の窯跡である牛頸(うしくび)窯跡群で製作された須恵器や、熊本県荒尾市周辺に所在する荒尾窯跡群、そして、熊本県宇城市周辺に所在する宇城(うき)窯跡群で製作された須恵器が確認されています。土師器では、器表面を筋状に磨いて光沢を出した「暗文(あんもん)」という文様をつけた土師器が見つかっています。これは、類似する土器が奈良県などの近畿地方で多く出土していることから、おそらく近畿地方からはるばる鞠智城まで運ばれてきたものと考えられます。また、海水から塩を生産する時に使われた土器が鞠智城跡から出土しています。これは熊本県天草(あまくさ)地方を中心とする有明海沿岸地域で塩づくりに使われた「天草式製塩土器」とよばれるもので、この土器の中に生産した塩を入れて、鞠智城まで運んできたものと考えられます。このように、出土した土器は鞠智城が様々な地域と交流をもっていたことを物語ってくれます。





■暗文土師器(鞠智城跡出土)



■製塩土器椀部の破片(鞠智城跡出土)

この電子書籍は、ここまでわかった鞠智城 5 を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、古代山城がある市町村教育委員会、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：ここまでわかった鞠智城 5　出土遺物について
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話：　096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：西暦 2002 年 8 月 18 日